

特定非営利活動法人 Global Bridge Network

令和元年(2019年)度 事業活動報告書

1. 活動期間:2019年4月1日~2020年3月31日

2. 事業の成果:

国際支援事業として、アフリカ・ウガンダにて平成29年度より実施している「女子生徒の教育環境改善」、「環境保全と地域活性化」の2つの事業は3期目を迎え、両事業は株式会社ラッシュジャパン様、地球環境基金様からの助成により継続して実施することができた。ウガンダの現地パートナー団体 SORAK の尽力もあり、3期目となる両事業の効果は着実に現地に根付いてきたことが確認できた。ウガンダでも新型コロナウイルスの影響を受け3月末からロックダウンが始まったが、活動に影響は無く、無事に終えることができた。そして、環境保全事業の「レモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業」については、今年度で事業終了となる。

国際交流促進事業として、横浜にて「Sanyu!_第3弾」のイベントを実施し、Global Bridge Network (GBN) の活動紹介をはじめ、アフリカの音楽・太鼓・ダンスなどを参加者と共に楽しんだ。また株式会社 ECS の社員の方たちとウガンダ料理を交えながらの国際交流会を開催、よこはま国際フォーラムのセッションでは日本在住のウガンダの方と共に、ウガンダの文化や日常生活などを紹介した。予定していたよこはま国際フェスタ(2019年10月12日)は台風のため中止になってしまった。今年度は、SORAK スタッフのハディジャが那須塩原にあるアジア学院にて農業指導員育成トレーニングを受講することになり、パートナー団体として彼女の来日に向けて様々なサポートを行った。

本年度は現地での国際開発事業が3年目を迎え、今後の方向性について現地と話し合うなど節目の年となった。しかし、ウガンダでも新型コロナウイルスの影響を受け、長引くロックダウンにより、食料が行き渡らなくなるなど人々の生活も苦しくなってきた。状況とタイミングを計りながら、今後も引き続き支援を続けていきたい。

3. 実施した事業の内容

主な事業は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の2本柱であり、以下にその活動内容の詳細を述べる。

① 国際支援事業

1) 女子生徒の教育環境改善

ウガンダでは、女子生徒が生理期間中に貧困のため生理用品を購入できず、古着等を代替し、衣服に漏れて男子生徒にからかわれてしまう、あるいは、代替品が不衛生なため病気に感染するなど、様々な理由で通学出来ずに退学してしまうケースが多く、女子生徒の教育環境には様々な課題がある。

今年度は、学校において昨年設立した月経衛生クラブ活動の継続と共に、新たに地域(パリ

サ県、ワキソ県)や対象者(中等学校の教員・生徒)を拡大し、学校の教員および生徒達を対象に、布ナプキン作成を含む月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育(性と生殖に関する権利を含む)を実施した。さらに、貧困地域の女性たちを対象に生理用布ナプキン作成トレーニングおよび月経時の衛生管理を実施した。

また、ラジオトークショーにて女子の学校教育の重要性、月経時の衛生管理の促進、生理用布ナプキンの使用の啓発、昨年度に現地パートナー団体 SORAK が開発した生理用布ナプキン‘Happy Pad’の広報などを実施した。さらに布ナプキン作成方法を録画した動画(<https://bit.ly/2LrQnZi>)を作成し、トレーニング実施後も自分たちで生理用布ナプキンを作れるように対象地域であるムベンデ県、パリサ県、およびエンテベ市などで配布した。

成果として、パリサ県で実施した月経に関するトレーニングは県で初の試みとして地域の新聞に取り上げられた。また、現地で生産している生理用布ナプキン‘Happy Pad’のクオリティがどんどん上がり、周辺地域や各所の団体から‘Happy Pad’の購入やトレーニング実施などの問合せが来た。以上のような状況により、現地でのニーズはまだまだ高いことを改めて認識した。本事業がより広範な地域に根づいていけば、女子が安心して通学し、きちんと教育を受けることができるようになる。長期的にみると、女性の社会的・経済的な自立にも繋がるものと思われる。(※各活動報告、終了時インパクト調査レポートは GBN の HP より参照可¹)

- 事業名:ウガンダ共和国で生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業
- 実施期間:2019年6月1日~2020年2月29日
- 実施場所:ウガンダ共和国(ムベンデ県、パリサ県、ワキソ県)
- 受益者:約3,500名以上(女子・男子生徒、教員、保護者、地域住民など)
- 支出額:約105万円



貧困地域の女性に月経時の衛生管理指導



学校教員や保護者への啓発



ラジオトークにて啓発



学校にてジェンダー啓発と性教育セッション



生徒に月経についてレクチャー



生徒と生理用布ナプキン作成トレーニング

¹ <http://globalbridgenetwork.org/works/>

2) 環境保全と地域活性化

ウガンダのムベンデ県では干ばつ、森林伐採、耕作地を求めた湿地帯への侵入など、人々の手による環境破壊が深刻な問題となっている。人口の多くを占める若年層や女性は特に収入源が限られ、失業率が高く生活に困窮しているが、気候変動の影響やその原因を理解していない。そのため生計を立てられない人々が耕作のための農地を求めた結果、上述の環境破壊へと繋がる行動を起こしてしまっている。



住民が畑を燃やしている



埋め立てられた湿地帯



岩の間にも育つレモングラス

干ばつで痩せた土地にレモングラスを栽培することは、土壌の浸食を防ぎ、環境に良いとされている。今年度で3期目となる本事業は、引き続きパートナー団体 SORAK によりレモングラス栽培を通じた環境保全事業を実施した。

今年度は環境保全・レモングラス栽培トレーニングを受講した女性・青少年の農家たちを定期的に訪問し、農家たちは植林にも力を入れ計 112,000 本のユーカリ—などを植林した。また、昨年設立した学校 16 校における環境保全クラブ活動のモニタリングやフォローアップをした。クラブの生徒達は植林を始め、校内での野菜栽培、ゴミ処理や廃棄物を再利用した手工芸品製作など様々な活動を実施した。さらに新たな対象校 5 校にて環境保全の啓発を目的とした会合を実施した。また、学校間対抗の環境保全促進のプロモーションのコンペ(イベント)を開催し、生徒達は歌・踊り・演劇などを発表し、優勝者を表彰した。学校関係者だけでなく、県、準郡、地方政府などもイベントに参加し、参加者全員で環境保全に関する意識を共有できた。

また、環境保全に関する法と規制を評価する政策立案の会合を実施し、地方の指導者たちは引き続き環境保全に取り組み、住民による湿地帯侵入を早急に止めさせると約束した。さらに地方政府(県レベル)の会合では本活動の成果と教訓を共有し、環境保全に関する法律の強化と早急な施行について影響を与えた。

SORAK は収穫したレモングラスからエッセンシャルオイルを精製し、そのオイルを用いた商品であるマラリアから身を守る効果のある「蚊よけジェル」を生産し、ビジネスとして成立させることができた。

今期の成果として、地域の女性や青少年など多くの農家がレモングラス栽培や植林に取り組むと同時に、環境保全に必要な情報や知識を身に付けることができた。対象校 16 校の環境保全クラブは、校内での植林活動や他の生徒・保護者に向けた環境についての啓発活動を実施し、学校の環境保全教育を根づかせることができた。さらに地方政府の指導者たちと共に、

湿地侵害などから環境を守る「法と規制」の強化や監視をするようになり、ムベンデ県では木の伐採の規制を目的とした新たな条例「木炭条例」が制定された。ムベンデ県で不毛だった土地へのレモングラス栽培は 20 エーカー²、植林は 224 エーカーに及んだ。

本事業は、地球環境基金様からの助成金により実施し、GBN は SORAK が実施する事業を代理団体としてサポートした。（※各活動報告レポートは GBN の HP より参照可³）

- 事業名：レモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業（ウガンダ共和国）
- 実施期間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
- 実施場所：ウガンダ・ムベンデ県およびチエゲグワ県
- 受益者：約 13,000 名以上（女性・青少年、学校の児童（16 校）、地域関係者、周辺地域の農家など）
- 支出額：300 万円



環境教育・啓発トレーニングを受ける生徒たち



環境保全クラブによる植林活動



環境保全クラブからキャベツを授与



廃棄物を活用した手工芸



環境促進プロモーション大会



苗木を集める女性グループ



地域の指導者と環境視察と監視



開発商品：レモングラスエッセンシャルオイル
の蚊よけジェル（マラリア予防）



商品のプロモーションをするスタッフ

² 1エーカーは、約 4,000 平方メートル、サッカーグラウンドおよそ 1 つ分

³ <http://globalbridgenetwork.org/works/>

② 国際交流促進事業

1) イベント「Sanyu!_第3弾」の開催

横浜市の MOANA (モアナ) にて国際交流のイベント「Sanyu!_第3弾」を開催した。GBN とアフリカンスタイルダンスを行っている STUDIO BARJARA、ジャンベ(アフリカの太鼓)グループのアフリカンたいこ教室 Djembe players によるコラボイベントだった。

GBN の団体紹介セッションでは、動画を流してウガンダでの活動を紹介した後、力強いジャンベのリズムとアフリカンスタイルのダンスによるパフォーマンスセッション、最後のウガンダダンスタイムでは、ウガンダの音楽に合わせて会場の全員で輪になって踊り、全員でアフリカを体感できるイベントとなった。

協力者は以下の通り。

- ・コーディネート: STUDIO BARJA(アフリカンスタイルダンス)
- ・出演: -アフリカンダンス STUDIO BARJARA DANCERS
-アフリカンたいこ教室 Djembe Players

(日時:2019年3月21日 13:00~15:30、場所:神奈川県・横浜市、参加人数:約30名)



GBN の活動紹介



アフリカンたいこ教室ジャンベの演奏



STUDIO BARJARA DANCERS
のパフォーマンス



ウガンダの音楽に合わせて全員でダンス



参加者と出演者の集合写真

2)ウガンダ料理を囲んでの交流会

当団体を支援して頂いている ECS 株式会社の社員の皆様とウガンダ料理を囲んでの国際交流会を開催した。GBN のウガンダ人スタッフが作ったウガンダの郷土料理を味わい、またウガンダの音楽を楽しみながら、日本で働くウガンダ人たちと親睦を深めることができた。



ウガンダ料理に腕を振るウアラファトシェフ



ウガンダ料理



ウガンダの主食ポシヨなど



シチュー、ピラウ(ウガンダ風ブラフ)など



参加者の皆様と集合写真

(日時:2019年9月28日13:00~15:00、場所:横浜市鶴見区、参加人数:約15名)

3)よこはま国際フォーラムへの参加

「楽しくウガンダを知ろう～文化・ライフスタイル・日本との違い～」

JICA 横浜で開催された横浜国際フォーラムの2日目の1セッションにて、GBNの団体紹介、ウガンダで実施している事業の説明、日本国内の交流活動やウガンダの人々の生活—食べ物、踊り、伝統衣装、観光地、アクティビティやライフスタイル—について紹介した。日本在住のウガンダ人に協力していただき、アフリカというと貧困や紛争などの問題が取り上げられることが多いが、それとは違う側面でウガンダの良さを知ってもらいたいとユーモアを交えて様々なお話をしていただいた。GBNの活動について初めて知る方やアフリカに興味がある学生さんなど多くの方々に参加していただいた。質疑応答の時間では、GBNの活動内容を始め、アフリカやウガンダについて多くの質問をいただき、ウガンダ人パネリストが質問に答える形で回答し、和気あいあいとした雰囲気の中、ウガンダの魅力について知っていただく機会となった。



代表大西より GBN の活動紹介



ウガンダ人ラフさんよりウガンダの紹介



クイズセッションの様子



ショップコーナー

(日時:2020年2月16日 12:00~12:50、場所:JICA 横浜、参加人数:約20名)

4)SORAK スタッフ・ハディジャのアジア学院にて農業指導員育成トレーニング修了

ウガンダ現地のパートナー団体 SORAK のマネージャー・ハディジャが、那須塩原のアジア学院にて2019年3月から9か月の農業指導員育成トレーニングを修了した。

アジア学院の研修では、授業を始め様々な課外活動や校外研修、個人プロジェクト(電気を使わずとも鶏卵を孵化させることができる装置作成)の実施等を通して多面的に学ぶことができた。ハディジャは、日本語集中講座、リーダーシップ研修を始め、有機農業、自然農法などの農業研修、さらには化学薬品の危険性、気候変動が与える影響、病害対策、種の採取、及び苗床、家畜管理、バイオガス等、様々なテーマを学習し、実践を通してスキルを身に付けることができた。農村地域における研修では東北の農家にホームステイをしながら日本の農家の人々との交流、また日本の農業組合などの学びを通して、自国のジェンダーの課題(社会的立場の弱い女性の農業におけるエンパワーメント)について考察した。また、西日本へのスタディツアーでは日本が抱える社会問題(ホームレス)を学び、広島の平和記念資料館などを訪ね、日本の様々な側面に触れる機会となった。

本研修を通じて、ウガンダで実践できる有機農業、家畜の育成のスキル・知識を得たのみならず、農産物の加工や販売等、付加価値をつけるトレーニングのアイデア、農業分野での女性の収入増加を目指す農協のような仕組みの作成など様々な活動のヒントを得ることが出来、現地に戻り次第、実践したいという強いモチベーションを持って研修を貫徹することが出来た。

他の外国人研修生との交流、日本各地の農家や関連施設の訪問等、貴重な学びの機

会を与えて下さったアジア学院には大変感謝している。また、GBN から見ても、ハディジャの 9 か月間の学びと成長は素晴らしく、本当によく頑張ったと評価している。彼女が学んだことを現地でも活かせるよう、今後もできる限りサポートしていきたい。



14 か国からの参加者が集まった
オープニングセレモニー



学院内での田植えの作業



学院内で鶏の世話をしている様子



県外の有機農家の訪問



鶴岡市の堆肥センターにて



日本在住のウガンダ人と研修終了のお祝い

法人名: NPO法人Global Bridge Network

貸借対照表

2020年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	549,717		
流動資産合計		549,717	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			549,717
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		626,694	
当期正味財産増減額		△ 76,977	
正味財産合計			549,717
負債及び正味財産合計			549,717